

季節のエッセー いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「キュウリグサ」

(ムラサキ科)

畑や道ばたなどに、ごくふつうに見られる草である。しかし、そのことに気づいている人は、案外少ない。それというのも、キュウリグサの花は約二ミリと、たいへん小さいのである。虫めがねを使ってじっくり眺めてみると、一つ一つの花はワスレナグサそっくりの可愛らしいもの。つぼみは、クルリと巻いた穂についており、その穂が下からほぐれるようにして、次々と花が開いてゆく。このような花のつき方は、「サソリ状花序」と呼ばれている。巻いた花穂を、サソリの尻尾に見たてたらしい。ちなみにサソリ状花序は、数ある植物の中でも、ムラサキ科だけに見られる特徴だという。花穂がクルリと巻いていたら、ワスレナグサの仲間と思って、ほぼ間違いがないようである。折るとキュウリの匂いがある。

参考資料:澤口たまみ著「岩手の野草百科」(岩手日報社発行)より

純情産地発
クララ KLARA vol.801
2016.4

みんなの力で!
がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

| | | | |
|-------------------------|----|----------------------------|----|
| 季節のエッセー いわての野草 | 02 | 平成28年度 全農岩手県本部編成表 | 08 |
| 特集 平成28年度(第46年度)事業計画 | 03 | 28年度新機構 消費地販売部新設 | 10 |
| | | JAいわてグループ農業 担い手サポートセンター | 11 |



特集 平成28年度(第46年度)事業計画 [平成28年4月から平成29年3月]

I. 重点実施策

本県農業生産は、高齢化や後継者不足などによる生産基盤の弱体化がすすむ一方、米の集落営農組織・法人化、園芸・畜産農家の規模拡大など新たな取り組みが始まっています。また、国は30年産米から生産数量目標を廃止し、産地の自主的な取り組みによる農業生産・販売の実践といった米政策転換をすすめています。

今次3か年(28~30年度)は、第44回JA岩手県大会(27年11月)の決議をふまえて、①マーケットインへの事業転換による販売力強化、②生産から販売までのトータルコスト低減などの取り組みを基本方針とする新たな事業プランを策定し、「農家組合員の所得増大」にむけて着実に実践するとともに、引き続き「農業生産の拡大」をはかるため生産基盤の維持・拡充策に取り組みます。

これらの取り組みを通じて、「純情産地いわて」の確立をすすめ、組合員および会員JAからの要望に対して、スピード感をもった事業運営をおこないます。

1. 県産農畜産物の販売力強化

- 販売統括部門の新設による米・園芸・畜産の販売品目が一体となった消費地販売力の強化
- 米穀事業における、販売を起点とした収穫前契約・複数年契約などによる契約促進および実需者との結び付きの強化
- 米穀広域集出荷センター「絆」を有効活用した利便性の向上による集荷数量拡大策の実践
- 園芸生産者収益の安定化に向けた、契約的取引および買取販売の拡大
- 畜産事業の販売拡大に向けた供給先全農グループ会社との産地提携事業の強化による新規取引先の開拓および銘柄の露出度向上
- 米、牛肉、りんご、花きを中心とした輸出事業への取組強化

(7)各種スポーツ大会への協賛ならびに食育活動(出前授業、学校給食など)を通じた「純情産地いわて」ファンづくり活動の継続実施

2. 生産者手取り最大化に向けたトータルコスト低減

- トータルコスト低減に向け、モデルJA生産者と一体となった取り組みの強化
- 土壌分析結果に基づいた施肥指導および環境保全型農業における省力・低コスト栽培技術の提案
- 青果物出荷用段ボール規格統一など生産資材・流通資材の改善によるコスト削減
- 農機基幹整備センターを活用した点検・格納整備の充実およびレンタル農機事業の推進強化による農機具費の低減

3. 「純情産地いわて」の生産基盤維持・拡充

- 米大豆麦の3か年ビジョンによる適正な作付配置の構築
- 園芸生産基盤強化に向けた、各種対策事業の内容充実による大型経営体への支援強化および加工・業務用野菜生産の取組強化
- 和牛改良センターの機能拡充による県内一貫生産体系モデルの確立と生産コスト圧縮支援
- 畜産酪農事業の生産性向上に向けた、本会生産指導部署による支援強化

4. 実需者・流通のニーズに対応した農業生産の実践

- 米穀の安定取引に向けた、実需者とJAの結び付きの促進
- 取引先ニーズに対応した産地づくりの推進および加工・業務用野菜の栽培技術の確立および普及促進

5. 多様な農業者ニーズへの柔軟な対応

- 「JAいわてグループ農業担い手サポートセンター」との連携による

るJA担い手支援体制の強化
(2)JAおよび関係機関と連携した全部門における指導体制の構築
(3)生産資材取扱強化に向け、JAと一体となった担い手生産者大型生産組織への推進活動の展開

6. 部門間連携による利便性向上および購買品取扱拡大

- 販売部門との連携による、地域や栽培品目に応じた生産資材の提案
- ガスと太陽光発電とのホームエネルギーベストミックスの導入提案の実施
- 各種提案を通じたSS運営改善および営農用燃料の未利用組合員への巡回推進などによる取扱シニアの拡大

II. 部門別実施具体策ならびに行動計画

米穀部

- 【3か年(28~30年度)基本方針】
- 用途別需要に見合った集荷数量の確保
- 確実な販売実践に向けたマーケットインへの事業転換
- 県産穀物(米・麦・大豆)の生産ビジョン策定と作付誘導

1. 米穀集荷の維持

- 水田活用米穀も含めた全ての米穀集荷維持

- (2) J.Aとの信頼関係強化(検討会・J.A巡回等)
- (3) 大規模経営体との信頼関係構築
- (4) 広域集出荷センターの活用によるフレコン出荷への積極的な対応

2. 確実な販売実践に向けたマーケティングへの事業転換

- (1) 安定取引に向けた「見える化」(実需者・J.Aとの結び付き)促進
- (2) 販売先を起点とした多様な契約販売手法(買取販売等)による契約促進と早期販売の実践
- (3) 県オリジナル新品種(銀河のしずく、若手118号)ブランド化による販売強化

3. 米・大豆・麦の3か年ビジョン作成と適正な作付け配置誘導

- (1) 県産穀物3か年ビジョンによる将来的な品目需要の整備
- (2) 実需者の意見をふまえたJ.A県との継続的な協議によるビジョンの精度向上

4. 流通コスト低減(保管料・運賃・集約保管等)

- (1) 第2の広域集出荷施設の建設
- (2) 広域集出荷施設「絆」を活用した効率的集約保管による保管経費の低減
- (3) コンテナ、一貫バレット輸送の充実およびトラック輸送単位のロットアップ



- (4) ㈱岩手畜産流通センターとの連携により「いわて牛」として輸出可能な対象牛の集荷を強化

3. 生産性向上対策

- (1) 「乳質改善事業」、「カウコンフォート事業」による生産性向上対策の実施
- (2) 農家や外部支援組織(酪農ヘルパー利用組合、TMRセンター等)への指導支援
- (3) 生産指導課を核として、J.Aおよび関係機関と連携した指導体制による生産性向上対策指導のスキルアップ

4. 改良増殖事業の推進と「第11回宮城全共」に向けた対応

- (1) 全共対策用短期肥育技術の研究向上と、種牛の部の出品対策技術の強化

資材部

- 3か年(28～30年度)基本方針
- 生産者手取り最大化に向けた取り組みの強化
- 肥料農薬の事業競争力の強化
- 食の安全・安心への取組強化と実需者ニーズに即した園芸作物への技術指導強化
- ガスを柱とした家庭用エネルギーの推進体制の構築

1. 生産者手取り最大化に向けた取り組みの強化

- (1) モデルJ.Aおよびモデル生産者の設置
- (2) モデル生産者ごとの経営内容の現状把握とコスト低減に向けた提案の実施
- (3) 提案内容の実践検証により、優良事例については水平展開を実施

2. 生産コスト低減に向けた取り組み

- (1) 施肥コスト低減

5. 食の安全・安心への取り組みの充実

- (1) 残留農薬など各種分析体制の整備と多様な分析項目による安心・安心の確保
- (2) DNA検査機器導入による自主検査体制の強化

園芸部

- 3か年(28～30年度)基本方針
- 実需者ニーズにもとづく生産基盤の強化
- 「オールいわて」としての販売戦略構築による販売力の強化
- 生産・流通コストの低減

1. 生産基盤拡大対策

- (1) 「園芸産地確立事業」を中心とした基盤拡大対策
 - ア. 地域の中核となる大型経営体の拡大促進
 - イ. 部会活動を通じて新規栽培・増反をおこなう生産者の支援の継続
- (2) 契約的取引と買取販売等を活用した、取引先ニーズ消費地提案への対応など、マーケティングによる産地づくり推進
- (3) 野菜の6割程度の需要を占める加工業務用の生産拡大
- (4) 団地化グループ化の推進による、計画生産責任供給可能な産地育成
- (5) 生産者収益の拡大に向けた秋冬品目の作付推進による「純情産地いわて」の周年産地化の取り組み
- (6) 青果・花きの反収向上に向けた営農指導員の指導力強化

2. 販売強化対策

- (1) 重点販売先への安定供給実現に向け、J.A間・集荷場間の連携などによる「オールいわて」としての販売強化
- (2) 生産者収益の安定化に向けた、産地直送の拡充と契約的取引および買取販売の拡大
- (3) 実需者および加工業務事業者との連携強化
- (4) 生産情報的確な把握による、情報販売計画販売の強化

- ア. 「B.B肥料大規模農家対策」の定着
- イ. 土壌診断データの活用による適正施肥の推進
- ウ. 施肥コスト低減に向けたB.B肥料現地銘柄の開発・普及
- (2) 防除コスト低減
 - ア. 「系統農薬担い手生産組織対策」の推進
 - イ. 担い手生産者・大型生産組織に対する大型規格農薬の普及拡大
 - ウ. J.A防除暦への低コスト農薬の採用促進

3. 系統結集による事業競争力の強化

- (1) 販売部門との連携による肥料農薬の取扱拡大
 - ア. 地域や栽培方法に適応したB.B肥料銘柄の普及拡大
 - イ. 良質米生産に向けた土づくり肥料の普及拡大
 - ウ. 系統独自品目の普及拡大による水稲減農薬栽培への取り組み

4. 食の安全・安心への取組強化と実需者ニーズに即した園芸作物の技術指導強化

- (1) 食の安全・安心確保に向けた各種分析検査(残留農薬、放射性物質、DNAなど)の実施
- (2) 土壌分析結果に基づいた施肥指導および環境保全型農業における省力・低コスト栽培技術の提案
- (3) 園芸部と連携した加工・業務用野菜の栽培技術確立および普及促進

5. エネルギー事業の推進体制の構築およびガス保安高度化の推進

- (1) 販売力(現場力)の強化
 - ア. J.Aとガス消費者とつながりを深めるための訪問活動の充実
 - イ. 燃料転換を中心としたLPガス増販と関連機器取扱
 - ウ. J.Aとの相互協力によるガスと住宅用太陽光発電とのホームエネルギーベストミックス提案の実施
- (2) 保安力の強化
 - ア. J.Aガス事業自主点検による自主保安体制の充実および販売所への保安指導の実施
 - イ. 24時間監視システムにおけるガスカッチ普及率拡大による保安高度化

- (5) 重点市場販売先への責任供給体制強化による、長期・安定販売の実現

- (6) 販促フェア等の重点実施による重点販売先への対応強化
- (7) 地域および全県ブランド品目の開発および販売強化
- (8) 消費地からの情報(販売状況品質評価等)収集発信の強化

3. 生産・流通コスト削減対策

- (1) 全国的な輸送状況の悪化に対応した輸送体系見直しの取り組みによる、輸送の効率化とコストの抑制
- (2) 生産資材・流通資材の改善(段ボールの規格統等)および低コスト資材の利用拡大推進
- (3) 生産性の改善、反収向上による収益向上策の推進

畜産酪農部

- 3か年(28～30年度)基本方針
- 系統組織一丸となった指導体制のスキルアップと生産性の向上
- 系統組織の機能を活かした和牛の県内一貫生産体系の確立による農家経営基盤の安定

1. 生産基盤の維持拡充

- (1) 「和牛繁殖基盤対策事業」の推進による中核農家の育成
- (2) 「搾乳牛舎増設助成事業」および「初妊牛導入対策事業」による増頭支援

2. 販売機能強化による有利販売の推進

- (1) 供給先および全農グループ会社との連携強化による「肉豚産地提携事業」の拡充
- (2) 和牛市場購買者誘致に向けた県外キャンペーンおよび購買者懇談会の実施
- (3) 県内小中学校の学校給食における食育活動とあわせて「いわて牛いわて短角牛」の利用促進をはかるとともに、スポーツ大会の協賛等により露出度を増すことでエンドユーザーの掘り起しをはかる

5. 容器検査施設および充填施設の運営改善

- (1) 他系列業者との連携による効率的な充填耐圧検査の実施

農機事業部

- 3か年(28～30年度)基本方針
- 品目別強化策の実践
- 事業運営基盤の強化

1. 農機具費の低減と担い手支援

- (1) J.Aグループ独自型式推奨型式の供給拡大、経営規模拡大に対応した大型高性能機械の取扱強化、加工業務用野菜の生産振興と連動した機械の普及
- (2) J.A園芸部との連携によるレンタル農機の利用促進とリースによる導入促進
- (3) 基幹整備センターによる点検格納整備の促進

2. 事業環境に対応した人材育成

- (1) 整備修理技術の向上に向けた、J.Aグループ農機検定による人材育成
- (2) 中古農機の流通拡大に向けた、中古農機査定士の養成
- (3) 生産コスト低減に有効なレンタル事業の更なる拡大

3. 事業運営基盤の強化

- (1) 全農新3づくり運動(①人づくり、②仕組みづくり、③結果づくり)の継続的取り組みによる活動基盤の充実
- (2) 現場対応力向上に向けた、J.Aグループ農機検定制度の更なる浸透
- (3) 基幹整備センターによる系統農業機械事業のサービス体制の強化

東北広域施設事業所

- 「3か年(28～30年度)基本方針」
- 専門機能強化による新たな事業領域の拡大
- 事業環境に対応した人材育成

1. 提案型事業の拡大

- (1) 新築物件における諸条件整理と魅力ある提案
- (2) 補修物件における調査診断と提案
- (3) 担い手経営体に対する交付金事業、リース事業等の提案による施設整備の実施

2. 震災復興への対応

- (1) 震災復興工事の施工代行による事業化
- (2) 将来の持続的な事業対応も考慮した復興支援

3. 省エネ設備等への取り組み

- (1) 設計物件への提案と採用
- (2) 既設施設の調査、診断、改善計画の提案

4. 事業環境に対応した人材育成

- (1) 一級建築士等の有資格者の人材確保



北東北石油事業所(岩手)

- 「3か年(28～30年度)基本方針」
- 修正マスタープランの策定・実践とSS運営力強化による取扱シエアの拡大
- 営業用・暖房用燃料の維持拡大
- 輸送効率化による物流コスト低減

1. 修正マスタープランの策定・実践

- (1) フルSSのセルフ化促進提案(セルフ改造促進、新規出店等)
- (2) ライフラインSSの低コスト建設運営提案(コンパクトセルフ化提案)

2. 運営力強化とブランド力向上

- (1) 人店創り、接客、クレームレスの徹底等の運営改善による現場対応力強化
- (2) 既存セルフSSの黒字化に向けた再検討(機器老朽化の改善、集客力向上、販売力強化)
- (3) 存置SSへの新CI塗装の実施によるイメージアップ強化

3. 新型POSの導入促進

- (1) パナー広告などの販促機能強化や安定稼働、高セキュリティ等の実現

4. 戸配送合理化の提案

- (1) 配送実態の精査、配送拠点集約による戸配送車の減車提案

5. 営業用・暖房用燃料の維持拡大

- (1) 巡回活動等を通じた未利用組合員、新規顧客利用への利用促進

6. 輸送効率化による物流コストの低減

- (1) 配送の効率化および輸送費の低減に向けたフリーオーダー率の向上



Ⅲ. 経営計画

1. 取扱高計画

岩手県本部は、「マーケットイン」への事業転換による販売力強化や、生産から販売までの「トータルコスト低減」などの基本方針による取り組みを通じ、今次3か年は、28年度141.8億円、29年度144.1億円、30年度142.3億円の取扱高計画とし、引き続き事業基盤の維持・拡大をめざします。

| 【岩手県本部 部門別取扱高計画】 | | (単位:千円、%) | | |
|------------------|-------------|-------------|-------------|--|
| 部門・ユニット | 28年度計画 | 29年度計画 | 30年度計画 | |
| 米 穀 | 28,094,348 | 28,435,286 | 29,077,073 | |
| 販 売 企 画 | 54,000 | 63,000 | 72,000 | |
| 大 豆 な た ね | 557,340 | 572,246 | 587,395 | |
| 麦 類 | 234,378 | 223,310 | 219,099 | |
| 袋 資 材 | 64,500 | 66,500 | 68,500 | |
| 米 穀 部 計 | 29,004,566 | 29,360,342 | 30,024,067 | |
| 園 芸 | 25,078,730 | 25,591,930 | 26,007,480 | |
| 一 般 農 産 | 279,600 | 304,100 | 314,000 | |
| 園 芸 資 材 | 219,000 | 239,000 | 250,000 | |
| 段 ボール 資材 | 1,636,400 | 1,656,900 | 1,720,000 | |
| 園 芸 部 計 | 27,213,730 | 27,791,930 | 28,291,480 | |
| 畜 産 生 産 | 3,231,750 | 3,166,750 | 3,101,750 | |
| 畜 産 販 売 | 18,210,000 | 17,907,000 | 18,270,750 | |
| 生 体 販 売 | 14,172,500 | 13,758,000 | 13,762,000 | |
| 酪 農 | 21,704,165 | 21,386,268 | 21,073,186 | |
| 畜 産 酪 農 部 計 | 57,318,415 | 56,218,018 | 56,207,686 | |
| 肥 料 | 6,136,685 | 6,104,460 | 6,066,635 | |
| 農 薬 | 2,669,350 | 2,658,350 | 2,647,350 | |
| 袋 資 材 | 481,375 | 477,180 | 472,103 | |
| J A G | 13,000 | 12,500 | 12,000 | |
| ガ ス | 1,515,800 | 1,504,600 | 1,463,300 | |
| 資 材 部 計 | 10,816,210 | 10,757,090 | 10,661,388 | |
| 農 機 | 3,156,900 | 2,966,400 | 2,969,400 | |
| 建 設 | 1,900,000 | 1,900,000 | 1,900,000 | |
| 石 油 | 12,431,068 | 12,349,031 | 12,267,662 | |
| 総 合 計 | 141,840,889 | 141,342,811 | 142,321,683 | |

2. 要員計画

岩手県本部は、事業に対応した要員体制・適正配置をはかり、29年3月末の職員数は、206名程度とします。

3. 機構改編

今次3か年(28～30年度)の最重要目標である「農家組合員の所得

増大」および「農業生産の拡大」に向けた重要施策の着実な実践体制構築を目的として次の体制整備をおこないます。

1. 新設

- 消費地圏における総合販売促進企画・立案・実施等をおこなう販売品目統括部門として次の機構を設置します。
- 消費地販売部(第3順位)
- 消費地販売課(第4順位)

2. 廃止

- (1) 県中央会の「J A いわてグループ農業担い手サポートセンター」へ県本部担い手対応機能の集約移管をするため次の機構を廃止します。

営業対策部(第3順位)
担い手対策課(第4順位)

3. 統合・名称変更

- (1) 米穀販売課(第4順位)
県産米の着実な販売実践を目的とした業務推進体制の強化ならびに効率化をはかるため、「集荷推進課」と「純情米販売課」を統合し、改称します。

4. 移管

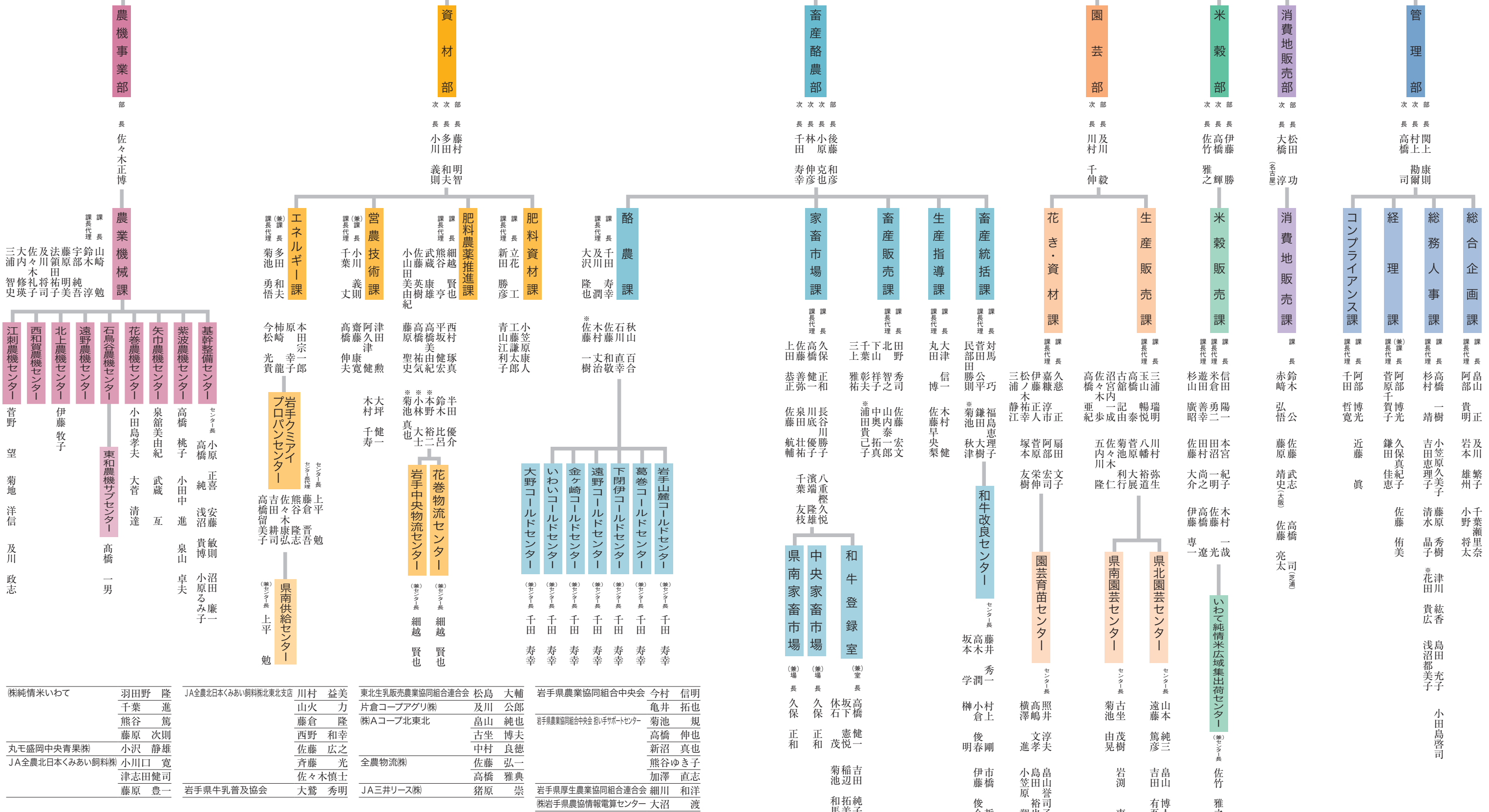
- (1) 営業技術課(第4順位)
従来の分析・診断・栽培検証業務に加え、「農家手取り最大化」に向けた業務の主管部署と位置付け、部門内連携による実効性確保をはかるため「資材部」に移管します。

以上、平成28年3月1日現在の7部20課34センター体制から、平成28年度より7部19課29センター体制とします。

平成28年度 全農岩手県本部編成表 (平成28年4月1日)

※印はJA関連会社からの受入出向者

| | | | |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 本所 業務監査部 内部監査課 加藤 吾郎 | 本所 ET研究所北日本分場 千葉 祐一 | 本所 生資部東北広域施設事業所 川原 美香 | 本所 燃料部 北東北石油事業所 岩手推進課 小田 裕之 |
| グループ会社統括部 グループ会社監査課 吉岡 誠江 | 肥料農業部 広域土壌分析センター岩手 小笠原富美男 | 生資部東北広域施設事業所 岩手施設事務所 武田 修 | 小山田和也 |
| 総合企画部 企画課 立花 智昭 | 肥料農業部 東北営農農材事業所 川村 憲幸 | 中村 睦 | 工藤 亮徳 |
| 総合企画部 事業開発課 佐々木 章 | 生産資材部 三浦 実 | 三浦 友一 | 岩本 大樹 |
| 経理部 会計課 吉田 桃子 | 生産資材部 農業機械課 津田 旭 | 太田 正孝 | |
| 畜産総合対策部 統轄課 戸田 優 | 生資部東北広域施設事業所 吉田 一寿 | 今野 長博 | |
| 家畜衛生研究所グループ外東北分室 長山美季子 | 水堀 宏樹 | 阿部 清一 | |



JAいわてグループ農業 担い手サポートセンター

「出向く活動班」の取り組みについて

■主な業務

- (1) JA-TACミーティング等JA内部連携会議の開催支援
- (2) JA担い手担当部署との連携による担い手・大型経営体への同行訪問
- (3) 法人支援、新規就農者・農業後継者への対応
- (4) 農家手取り最大化モデルJAへの対応
- (5) TACシステム普及・指導
- (6) Z-BFM等を活用した担い手・大型経営体への提案活動
- (7) 6次化商品開発および販路拡大、各種商談会への対応
- (8) 情報提供(Eメール配信等)

■会議・研修会等の開催

- (1) TACアグリビジネススクール(年10回)
- (2) JA-TACスキルアップ研修会(年1回)
- (3) 本所・ブロック研究会・研修会(年2回)
- (4) 岩手県TACパワーアップ大会およびトップセミナー(年1回)
- (5) 全国TACパワーアップ大会(年1回)
- (6) 県本部TACミーティング(年24回)

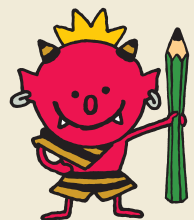
平成28年4月1日から、「JAいわてグループ農業担い手サポートセンター」(以下、サポートセンター)が開始しました。このサポートセンターは、JAいわてグループの今次3か年の重点実施事項である「担い手経営体等のニーズに応える個別対応強化」に向け、JA県中央会、連合会が一体となった取り組みが必要であることから、JA岩手県中央会に設置され、県中央会職員ならびにJA・連合会からの受入出向者で構成されています。サポートセンターの設置を踏まえて全農岩手県本部は

営農対策部担い手対策課を廃止し、その業務をサポートセンター「出向く活動班」に移管しました。平成28年度から全農岩手県本部は、「出向く活動班」との連携を基軸に、担い手対応の強化ならびに営農・経済事業の改革支援等に取り組んでいくこととなります。

新たにスタートした「出向く活動班」ですが、サポートセンター設置によるJAいわてグループ連携のメリットを生かし、「JAの総合事業発揮に向けた支援(TAC活動)」や「担い手へ出向く活動の展開」といった従来の取り組みの深化・拡充と、次期3か年のメインテーマである「農家組合員の所得増大」に向けた「JAいわてグループ農業担い手サポート事業」を積極的に推進していくことを目的に、以下の体制で具体的な取り組みを進めてまいります。

今月から新たにクララ紙面に設けられた「担い手サポートセンター」コーナーを通じて、「出向く活動班」をメインとしたサポートセンターの活動内容や実績を毎月皆様にご報告していきます。

JAいわてグループ農業担い手サポートセンター機構図



編集
後記

4月、全農いわては新たな体制で平成28年度のスタートを切りました。今月号で紹介した「消費地販売部」と「担い手サポートセンター」もその一部。来月号からそれぞれコーナーを設け、引き続きスポットを当てていきます。また、本会が運営するイ

ンターネットショップ「いわて純情館(JAタウン)」の商品紹介コーナーも設置予定です。

新しくなった「クララ」を、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(千葉)



大田市場正門



大田市場事務棟。(当ビル内に事務所を構えています)

28年度新機構 消費地販売部新設



大田市場内部の様子。(日本一の取扱規模を誇る市場です)



大田市場事務所の様子。(園芸担当・米穀担当が常駐します。)



消費地販売部
部長 松田 功

本県農業は、米穀・園芸・畜産の3本柱で成り立ち、その農業基盤は豊かな自然に育まれ、耕畜連携の中で安全安心な農畜産物が生産されています。米穀に関しては、日本穀物検定協会において「県南ひとめはれ」が「特A」を21回獲得。園芸では、首都圏での認知度アップと産地確立を狙いとした県産独自ブランドの開発(「春みどり」「冬恋」等)と普及拡大。畜産においては、全国肉用牛枝肉共励会において過去11回名誉賞を獲得するなど、優れた農業生産県として、また食糧供給基地としてなくてはならない産地となつてい

「ピュアないわてをまとめて消費者へお届け！」

を高め、有利販売を行うために、従来の部門別消費地販売拠点から、今回、新たに総合的優位性を活用した販売実践拠点(消費地販売部)を設け、縦軸から横軸へと水平展開を進め、部門横断的業務推進(バリアフリー化)に取り組んでいきます。このことは、各部門が相互に連携し「純情産地いわて」としてのトータル販売を実践することであり、県産ブランドのポトムアップを推し進めることにつながると確信しています。

また、今次3か年(28〜30年度)では、JAいわてグループとして達成すべき基本目標である「農家組合員の所得増大」の実現に向けて、これまでの重点戦略「プロダクトアウトからマーケットインへの事業転換」の深化・拡充をはかるため、産地に対しては、「消費者ニーズ」をいち早く伝達し、生産者の手取りアップとなる「魅力ある商品」の提案を行い、消費地に対しては、「純情産地いわて」のPRと生産された「農畜産物」を末端実需者・消費者へ全品目まとめて届ける総合的な販売を行うといった重要な役割を担う部署であると認識し「産地・生産者のために、消費地・岩手ファンの消費者を増やすために、そして産地と消費地がWin・Winの良い関係を構築するために」を合言葉に、今年度から部員一丸となつて業務を推進して行きたいと考えています。

皆様の応援よろしく願っています。

●全農岩手県本部

| 部署名 | 住所 | 電話番号 | FAX |
|-----------|-------------------------------------|---------------|---------------|
| 受付 | | (019)626-8603 | |
| 管理部 | | (019)626-8615 | (019)626-8634 |
| 総合企画課 | | (019)626-8610 | (019)653-6145 |
| 総務人事課 | | (019)626-8629 | |
| 経理課 | | (019)626-8163 | |
| コンプライアンス課 | | (019)626-8644 | (019)624-4822 |
| 米穀部 | 〒020-8605 岩手県盛岡市大通一丁目2番1号 (岩手県産業会館) | (019)626-8654 | (019)653-3746 |
| 畜産酪農部 | | (019)626-8660 | (019)621-8630 |
| 畜産統括課 | | (019)626-8662 | |
| 生産指導課 | | (019)626-8674 | (019)653-9865 |
| 酪農課 | | (019)626-8688 | |
| 資材部 | | | |
| 肥料資材課 | | | |
| エネルギー課 | | | |

●拠点事業施設

| 部署名 | 住所 | 電話番号 | FAX |
|---------|--|---------------|---------------|
| 消費地販売部 | 〒143-0001 東京都大田区東海三丁目2番1号(大田市場事務棟4F) | (03)5755-6360 | (03)5492-5208 |
| 園芸部 | | (019)614-1896 | (019)638-2145 |
| 生産販売課 | | (019)614-1895 | |
| 花き・資材課 | 〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南二丁目5番2号 | (019)638-6982 | (019)639-5788 |
| 資材部 | (JA全農いわて純情産地営農支援センター) | (019)681-0361 | (019)639-5808 |
| 農機事業部 | | (019)672-4313 | (019)676-3475 |
| 畜産酪農部 | 〒028-3311 紫波郡紫波町犬淵字南谷地120番地 | (019)692-5711 | (019)692-4951 |
| 畜産販売課 | | (019)692-5711 | (019)692-4951 |
| 家畜市場課 | 〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森20番地1 | (0198)26-2390 | (0198)26-2080 |
| 資材部 | 〒025-0312 花巻市二枚橋第5地割120番地1(肥料資材推進センター) | | |
| 肥料農薬推進課 | | | |

●センター

| 部署名 | 住所 | 電話番号 | FAX |
|---------------|--|---------------|---------------|
| 米穀部 | 〒025-0312 花巻市二枚橋第5地割165番地 | (0198)29-4325 | (0198)26-5021 |
| 園芸部 | | (03)5755-6360 | (03)5492-5208 |
| 東京園芸販売センター | 〒143-0001 東京都大田区東海三丁目2番1号(大田市場事務棟4F) | (0195)61-2131 | (0195)62-6588 |
| 東北園芸センター | 〒028-4307 岩手郡岩手町大字五日市12-60-2 | (0197)28-3855 | (0197)32-2866 |
| 県北園芸センター | 〒023-0171 奥州市江刺区田原字深沢5-60 | (019)673-8066 | (019)673-8068 |
| 県南園芸センター | 〒028-3452 紫波郡紫波町片寄鍛冶屋敷5-1 | (019)688-4044 | (019)688-6629 |
| 園芸育苗センター | | (019)692-5711 | (019)692-4951 |
| 畜産酪農部 | | (019)692-5711 | (019)692-4951 |
| 和牛改良センター | 〒020-0619 滝沢市上岩手山268-7 | (0197)32-2858 | (0197)32-2857 |
| 和牛登録室 | 〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森20番地1 | (0195)76-2422 | (0195)75-2443 |
| 中央家畜市場 | 〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森20番地1 | (0194)31-1333 | (0194)22-3900 |
| 県南家畜市場 | 〒023-0171 奥州市江刺区田原字深沢5-60 | (0198)62-6638 | (FAX兼) |
| 岩手山麓コールドセンター | 〒028-7113 八幡平市平笠第24地割1番77号 | (0197)43-2545 | (FAX兼) |
| 下閉伊コールドセンター | 〒027-0502 下閉伊郡岩泉町乙茂字和乙茂8番地1 | (0191)75-2572 | (FAX兼) |
| 遠野コールドセンター | 〒028-0503 遠野市青笹町青笹18地割1番地 | (0194)77-5506 | (FAX兼) |
| 金ヶ崎コールドセンター | 〒029-4503 胆沢郡金ヶ崎町西根高谷野原79-1418 | (0198)30-1200 | (0198)30-1266 |
| いわいコールドセンター | 〒029-0523 一関市大東町摺沢字沼田27番 | (019)698-3717 | (019)698-3718 |
| 大野コールドセンター | 〒028-8803 九戸郡洋野町大野阿子木第18地割上川原36番156 | (0198)26-3124 | (0198)30-2404 |
| 資材部 | | (0197)56-7444 | (0197)56-2404 |
| 花巻物流センター | 〒025-0312 花巻市二枚橋第5地割120番地1(肥料資材推進センター) | (0197)72-5135 | (0197)72-5136 |
| 岩手中央物流センター | 〒028-3622 紫波郡矢巾町大字上矢次7-54-7 | (019)673-7127 | (019)673-8364 |
| 岩手クミアイロパンセンター | 〒025-0312 花巻市二枚橋5地割120-1 | (019)697-3133 | (019)611-2244 |
| 県南供給センター | 〒029-4205 奥州市前沢区字小沢川25番地3 | (0198)23-2110 | (0198)22-7900 |
| 農機事業部 | | (0198)47-2111 | (0198)47-2470 |
| 基幹整備センター | 〒024-0071 北上市上江釣子17地割64-1 | (0198)42-4006 | (0198)42-3250 |
| 紫波農機センター | 〒028-3453 紫波郡紫波町土館字沖田25 | (0197)77-5061 | (0197)77-5121 |
| 矢巾農機センター | 〒028-3625 紫波郡矢巾町大字室岡11-3-5 | (0197)35-2716 | (0197)35-2569 |
| 花巻農機センター | 〒025-0052 花巻市野田307-1 | | |
| 石鳥谷農機センター | 〒028-3131 花巻市石鳥谷町猪鼻7-68-1 | | |
| 東和農機サブセンター | 〒028-0114 花巻市東和町土沢6-111 | | |
| 北上農機センター | 〒024-0071 北上市上江釣子17地割36-3 | | |
| 江刺農機センター | 〒023-1103 奥州市江刺区西大通り11-18 | | |

●本所拠点施設

| 部署名 | 住所 | 電話番号 | FAX |
|-------------------|---|---------------|---------------|
| 東北広域施設事業所 | | | |
| 東北広域施設事業所 岩手施設事業所 | 〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南二丁目5番2号 | (019)638-1405 | (019)638-1519 |
| 北東北石油事業所 | 〒020-0143 盛岡市上厨川横長根42-1(JAいわて中央厨川出張所2F) | (019)646-7283 | (019)605-3303 |

●主要関連会社

| 部署名 | 住所 | 電話番号 | FAX |
|-----------------------|--------------------------------|---------------|---------------|
| 株純情米いわて | 〒020-0842 盛岡市湯沢15-1-2 | (019)638-0120 | (019)637-7911 |
| くみあい肥料(株) | 〒025-0312 花巻市二枚橋第5地割146番地 | (0198)26-3313 | (0198)26-3316 |
| JA全農北日本くみあい飼料(株)北東北支店 | 〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南二丁目5番2号 | (019)638-7910 | (019)638-7920 |
| 株Aコープ北東北 | 〒020-0861 盛岡市仙北二丁目5番4号 | (019)681-6321 | (019)636-3722 |
| 株岩手畜産流通センター | 〒028-3311 紫波郡紫波町犬淵字南谷地120番地 | (019)672-4181 | (019)676-2024 |
| 岩手農協チキンフーズ(株) | 〒028-6103 二戸市石切所字火行塚25 | (0195)23-3377 | (0195)22-4366 |



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
 - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
 - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

